

六稜通信

1971.2.25 第2号

題字 日展委嘱 母校教諭
阿部 醒石 先生

祝御卒業

本日ここに3ヶ年の業を終えてご卒業になる484名の皆さま、おめでとうございます。

わが同窓会は今日から、気鋭の皆さまを新会員としてお迎えし、更に活気と力を加えることとなりました。皆さまに申し上げたいことは、さきほど本会常任理事鴻池藤一氏の述べられた通りであります。母校は年を経て益々懐しく、愈々身近かに感じられて参ります。同じ窓の明りに結ばれるお互い、手をとりあつて参りましょう。

卒業生におくる言葉

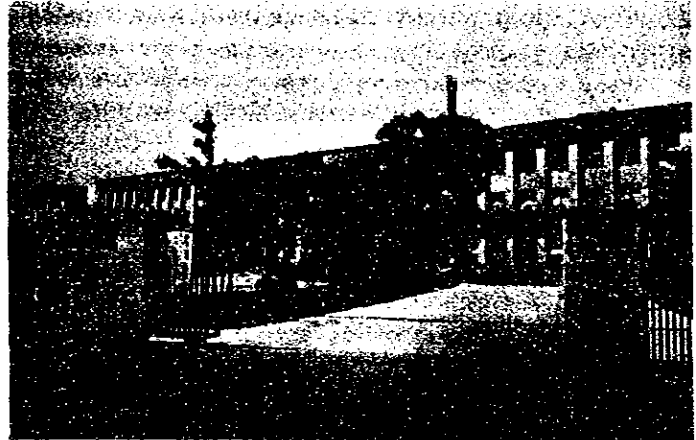
卒業学年主任 泉 梯二

諸君は三ヶ年の研鑽を終えて、本日母校を去って行くのだが、卒業して行く諸君の気持ちは、一体どんなものなのだろうか。

卒業式という言葉が一般的に与えるイメージは、華やいでいてそして何となく潤潤な或種のものである。

かつて私の勤めていた高校では、式の間にすすり泣きの声の聞こえることもあったし、式後も卒業生はなお去り難く校庭のここかしこにたむろした。職員室は別れを惜しむ生徒で充滿し、歓声があがり、記念帳に揮毫を求める者の列ができた。

ところが北野ではそうでない。式はまことに快活な、むしろ乾練した雰囲気をもって終始し、すすり泣きの声などおおよそ想像も出来ぬ。式が



母校正門

終ると卒業生らは、突に何気なく、まるでいつもの放課後下校して行くかの如くに三三五五静かに校門を去って行くのみである。そしてこれはまたこれでよい。

私自身のことをふり返ってみると、卒業式についての思い出は今や全くない。ただ卒業を前にひかえての解放感を味わい、それが嬉しさにつながった事はたしかである。合格発表や入学時の雀躍したいような心持ちは今も鮮明に思い出されるのに、これは一体どうしたことなのであろう。

実に卒業の感慨は、入学の歡喜に遠く及ばぬものであると知る。

しかし其後の人生に於て、単に形而下的な意味のみならず、われわれの一生に強い影響力を及ぼすのは、やはり卒業という事実、ある業を終えたという画期的な出来事、のほう

である。われわれは、生きている限り、卒業という事実の影を長く自分のあとに曳いている。それが強みであり誇りであることもあれば悲しませることもある。

卒業をある事の終りと見れば、失ったものへの愛情の念も薄く、しかし事の始めと見れば、われわれの目は遠い未来に向くだろう。北野の卒業式風景、その中に私は諸君の爽り多い未来を見た。諸君はわれわれの知らぬ歴史を経験するだろう、われわれの想像を絶する世界に生きるだろう、そしてわれわれの遂に解き得なかった数多くの謎を解き明すであろう。その意味では、まさに諸君は未来から来た者と首える。

最後に私の好きな句を、
春潮に鯉けとや舟の縛を解く

誓子



大和銀行

●日々のお出し入れから有利な金銭信託、不動産の売り買い住宅など各種ローン 海外取引全般のご用、財務 税務 経営のご相談...など<ダイヤ>は幅広くお役に立つ銀行です。

母 校 断 章

45年春の大学入試の結果

国立一岡校	在校生	卒業生	計
東大	8	10	18
京大	59	40	99
阪大	50	32	82
神大	32	16	48
その他	17	19	36
合計	166	117	283
国立二期校			
合計	30	27	57
公立			
合計	40	26	66
私立			
早大	6	38	44
慶大	5	15	20
その他	181	211	392
合計	192	264	456

校史編集作業予定案

(校史編集委員作製)

- 46年1月) 目次案作成のための資料
討議 (編集委員)
- 2月) 目次案作成 (編集委員)
- 3月) 目次案決定 (校長・教頭
事務長・編集委員)
- 4月) 目次案準拠の草稿執筆開
始 (編集委員)
草稿作成と内容の討議・
検討 (編集委員)
草稿原稿の文章・表現等
の統一 (編集委員)
- 12月) 草稿原稿の校訂終了
(校長・教頭・編集委員)
- 46年12月) 原稿完成 (校長・編集
委員)
- 47年9月) 原稿の編集(レイアウト)
(校長・編集委員)
- 48年3月) 印刷・校正・製本・出版
(編集委員(校長))
- (註、編集委員→村川、深江、柏尾、
水落の各先生)

プールの改築

昭和17~18年の冬、開戦一周年の記念事業として当時の在校生諸君が汗を流して敷をふるい、又父兄達が寄附された多額の浄財によって構築された50メートルの大プールもようやく老朽化して使用に支障を来すものになり、この程府費4000万円をも

って改築されることになった。府当局としては、他校との均衡もあり、25米のプールを計画していたが、本校としては現在のものが50米のものだけに従来の規模を強く要求し、結局、府下の高専学校の中でも類まれな50米の公式の競泳にも使われる予定のプールに決まった。昨年11月12日地鎮祭、ひき続き益田組の手によって工事が進められ、今年の三月末に竣工の予定である。



改築中のプール

読まれなかった答辞

去年(昭和45年)1月末から2月にかけて約1カ月、卒業式をどうするかということは学校では深刻な問題であった。事実、結果的には卒業式が大混乱に陥った高等学校は、府下だけでも少なくなかったあの時期を前にして、すでに44年6月の文化祭に、東大紛争の全共闘を支持すると宣言している井上清京大教授の講演を要求して手を焼かせ、9月以降にも、度々めんどうなことをひきおこしてきた3年生を受けもつ担任教師にとっては、とりわけ頭の痛いことであった。度々の話し合いの結果、①教務、知事、府会など外部から

の祝辞を辞退する

- ② 君が代の斉唱と講堂正面の壁面に懸吊される日の丸の大国旗に代ふるに校歌、校旗を以てする。
- ③ 学力優等生の表彰廃止
- ④ 在校生の送辞ならびに出席辞退等を学校当局に申し入れると共に、各クラスから選ばれた答辞作製委員を集めて、その原稿の作製が始められ、もち寄られた案はまとめて印刷されて3年生全員の検討に委ねられた。学校から指名された個人の考えでなく卒業生みんなの意見が反映されていくことは望ましいことだとしても何人もの作った部分をもち寄り、さらに極端に意見を異にする雄弁家を含む多数の検討にまかってそ

化学業界に貢献するカメレオン試薬・化成品



キシダ化学株式会社

取締役社長 岸田 恭一 (第55回卒業)

大阪: 東区道修町2丁目5 電話06-202-0451(代)

東京: 中央区日本橋本町 九州: 八幡・福岡

母 校 断 章

役員のない生徒自治会

こを削除し、こを挿入したものを一つの形としてまとめ上げる作業は容易なことではなかった。さらにこれを卒業生総代として誰が読むか、卒業生の誰もが納得する人物ということになると、例年ならば、十目の視るところ、十指の指さすところ、その的を外れることはあり得なかったが、複雑な状況下の昨年は、なかなか意見が分かれて決定の段階に到達するのに手間取った。

こうして一方ではその準備を進めながら幾度か深夜に及ぶ3年担任と校長との話し合いが進められ、十分な意見の交換がなされた上で、職員会議にはかられ、答辞は祝辞辞退との関連もあってか、読まないこととなり、思いきって簡素な形式の卒業式となった。この決定がなされる前提としてすでに答辞の作製を終わった全卒業生がこれを納得するであろうという信頼があり、全卒業生もよくこの信頼に応えた。

この簡素な形式について、浦野校長は大要次の如き説明をされた。

従来の卒業式を簡素化するというのではなく、あの形式はあの形式として改良する余地のない立派なものであるから、そのままこれを残し、別に新しい今日の時代に即した形式を作るのだ。それは従来の羽織袴の礼装を改造するのではなく、それはそのままいつでも使える状態でひとまず単着にしまい、別に今年1年だけというのではなく、当分その使用に耐える礼装として、モーニングを作るのに相当する。改めるのでなく二種の形式を持つのだ。

かくて、卒業証書授与と校長式辞を柱とした、多くの人の当初思いもかけなかった簡潔な式となった。全卒業生が大学入試を目前にして長時

間にわたって真剣に討議し作製した答辞はついに日の目を見ない羽目となったが、「答辞の内容に問題があつて読ませないというのではなく、私個人としては、むしろ読ませたいくらい立派なもの」(校長)という評価がこれには与えられた。

かくて画期的な来賓の祝辞も、在校生の送辞も卒業生の答辞もない卒業式が神代の昔、天の香山の樹を根こじにこじてきてこれに八尺の鏡と曲玉をかけ、あたかもその御前で神を祭るが如く、いとも厳肅莊重に挙行された。

今年もこの形式で行なわれる。

創立記念日は4月20日

多年7月1日が創立記念日となっていたが、校史編集委員の調査の結果、7月1日には別にこれという根拠もなく適当な日とはいえないので、明治6年4月20日の欧字校設立の日を以て創立記念日とすることになり、今年から実施される見通しである。

教室にガス・ストーブ

先輩諸兄姉の皆さま、北野の各教室に最新式の円筒型ガス・ストーブが去年の冬から設置されてグンと暖かくなりました。多くの皆さまは講堂の一角にそびえる大煙突だけを残して、すっかりスチーム設備が取り除かれて火の気のないところか、定時制専用の冷たい石炭ストーブの鉄の塊が火おこさぬ炭櫃の幾倍のすさまじさで面憎くかまえていた冬の教室しか想像がつかないでしょう。全く申訳がないほど真紅に燃えて快適でございます。

新制高校発足とともに始まった生徒自治会活動は従来、一般生徒の関心が薄く低調と言われながらも、とにかく23年続いて来た今、極めて困難な時期を迎えている。

ことのおこりは、昭和44年秋の後期自治会役員選挙に始まる。この時A.B.C.の三立候補団があつて、時あたかも全国的に高校紛争熾烈の時でもあり、各候補団(会長、副会長、書記、会計の4~6人がペアで立候補)はそれぞれ立会演説会で熱辯をふるった。60分という規定の生徒集会の時間だけでは不足とし、放課後も続けられたが、結局は多数の関心を惹くことはできず、投票の結果は何れも有効投票(この時白票多し)の過半数が得られなくて不成立に終わった。その後、再度立候補の気配があつたが結局関心無き多数の票を得て当選するを潔しとせず、みな立候補を取りやめ、ついに後期執行部は成立しなかった。45年度に入って春の選挙には、一つの立候補団があつたが、信任投票の結果、有効投票の過半数を得るに至らず不成立、後期に入っても立候補なく生徒議会在が執行部の仕事を代行し、会計のみは44年度の前期の会計が3年近く、その任を続けてきたが、これもこの程辞退してしまつた。今最も困っているのは、各クラブで自治会より配分されるはずのクラブ補助費が支出されず、クラブ活動に支障をきたす恐れが出てきていることである。生徒議会在は何とかこれを立てなおそうと真剣な努力を続けているが、次の46年度の見通しも暗い。

試薬

石津製薬株式会社

取締役会長 石津 作次郎(明治38年卒)
取締役社長(兼取締役) 石津 一 貫(昭和13年卒)
常務取締役 石津 純 正(昭和17年卒)

本 社 大阪市東区道修町2丁目2 6 電話(06)231-5003代表
工 場 大阪市城東区鶴見4丁目13番地の4 電話(06)911-3786代表
九州営業所 福岡市大字箱崎字荒新開3 9 7 0 電話(092)64-1561代表

大先輩上野精一さんを偲ぶ

上野精一氏略歴

M15.10.28日生

M33.3月北野中学校卒

M40.7月三高をへて東大独法科卒

M40.11月-43.2月日本勧業銀行勤務

M43.3月朝日新聞合資会社入社

S8.12月朝日新聞社 社長

S20.11月同社 社主

S45.4.19日逝去(写真は故上野氏)

先輩上野精一さんを偲んで

山村秀雄 (36回、T12)

去る四月十九日天寿を全うして、八十七年の偉大なる生涯を終られた朝日新聞社々主上野精一さんは、我が六校同窓会の大先輩である。北野高校の前身、北野中学が大府立第一中学校と称して堂島にあった頃の明治三十三年(一九〇〇年)の卒業生で、それから七十年の長い間、母校にとって常に頼もしい先輩と仰がれた方である。

私が初めてお目にかかったのは、大正十一年(一九二二年)に京都の旧制三高に入学するについて、母校の推薦により上野さんから奨学金を戴くことになった時である。数えればほぼ半世紀の昔になるが、その後隔てない交際を許された年月の時々思い出はパノラマの如く生き生きと、そして懐しく胸中を去来する。がさてペンをとって文章に綴るとなると、案外に肝腎な点がぼやけたり或いは故人の遺徳を傷つけるような誤解を招いたりしないかと危惧されるのである。

上野さんについての最初の鮮明な印象は、挨拶のため芦屋のお宅を初



めて訪問した時のことである。梅子夫人や当時小学生の令息淳一さん(現朝日新聞社々主)や令嬢の正子さんにも同時にお目にかかったが、その時の思い出が二つある。一つは北野中学で英語担当の南部先生から、その真の意味を繰返し懇々と教わったGENTLEMANとLADYの二語がパツと頭にひらめいたこと。も一つは、清らかで温く而も折目正しい、そう言う御家庭の雰囲気の中で、一介の書生っぽをひとかどの客らしくもてなして下さったため、大いに感激したことである。

上野さんは朝日新聞の創設者の一人、故上野理一氏の長男として生まれたことにより、新聞人としての生活を運命づけられ、終生その道一筋に情熱を注がれた人である。寛厚、温和且つ円満な人柄にかかわらず、こと言論の自由とか、新聞の使命とかの専門的な問題に関しては、深い学識と共に確固たる信念を持ち続けられ、我々門外漢に對してさえ、これを説いて飽くことを知られない趣きがあった。「新聞の使命は正確な事実の報道にある」との主張を、私は戦前戦後を通じて、何度か耳にし

た記憶がある。

上野さんは学問を好み学者を敬い書籍を愛した人である。芦屋のお宅は大正時代から書籍で埋まり、書庫や書齋からはみ出した図書が、欧米の新聞雑誌類と共に、玄關ホールや廊下の奥ばを占め、高いところは天井に届くほどで、文字通り充棟の有様であった。この調子で増えつづけたら一体どういうことになるのかとひそかに案じたのは私だけではなかったらうと思う。ところが後年これを精密に分類整理の上、維持費を添えて京都大学に「上野文庫」として寄贈された。まことに見事な結末と申すべきである。

昭和二十二年晩秋から数年間、戦後のいわゆる公職追放によって役目を離れて居られたが、この時期にはしばしば京都を訪れて、大学の諸先生と交際せられたようである。時たまたま日本銀行京都支店長の任に在った私の寓居にも、「今日は新村先生(新村出文学博士、広辞苑、言林の編者)にお会いして来た」と言う調子で、お立ち寄り下さることが珍しくなかった。

本業から離れての生活は、真面目な上野さんにとって大変寂しいことであつたと察せられるが、それはそれとして、学問好きの上野さんは、思うままに学究的の生活ができたこの時期を、案外楽しんで居られたのではないかとも思うのである。その当時出版されたミルトンの「アレオパヂヤカ」は勿論、ずっと後に出版されたベン・ジョンソンの「新聞商会」も、この時期の研究題目に入っていたのではないかと想像されるが果して如何であつたらうか。

上野さんは実に高潔な人格者であつたが、同時に教養も趣味も豊かな

株式会社カイゲン



カゼには 改源

胃を荒さない漢方処方

お子様には カイゲンシロップ



文化人であった。しかも自分からそれらをひけらかすようなことは、決してされたい床しがあり、昔わば燦銀（いぶしぎん）のような感じであった。私は学生時代の或る日、上野さんから俳句の話を引き出し、何か御近作とは尋ねたところ、「これなんかどやろ」と示されたのが、

立つ禪座る禪や雲の峰

という句であった。

今と違って当時芦屋の海岸は、白砂青松の美しい海水浴場で、夏には日焼けした大人が子供が、バラバラという程度に散らばり、碧い海の向こうに真っ白い入道雲がそびえ立つといった情景であった。この句はそのような景色を見たままに詠じられたものか、或いは入道雲の形が立つ禪や座る禪のようで面白いと思われるの作か、その辺はもはやお尋ねするよすがもない。

上野さんの性格の一特徴として、外柔内剛という形容語を挙げて置きたい。私どもは正にその「外柔」の恩恵に浴した側であるが、内向きは相当厳格な家風で、例えば御一家で旅行される時など、学生時代の淳一さんは、一人だけ三等車に乗せられるという「内剛」ぶりであった。

こんなことを書くと失礼になるかもしれないが、お宅を訪れた或る日私は、上野さんが居られる席でうっかり禿頭に關する話をしだし、途中で気がついたが既に後の祭り、どうにもならないので「失礼しました」と頭を下げた。上野さんは即座に「かまへん、かまへん」と却って気の毒そうな顔をされ、やがて申されるには、昔学生の頃夏休みに友達と信州へ勉強に行ったところ、友達の園元から鶉卵を一箱送ってきた。腐ると勿体ないから早く平げようと、毎

日毎日十箇以上も食べたが、そのためか秋になって急に毛が薄くなったとユーモラスな話で弱地を救って下さったが、これなども「外柔」の部類と言えるであろう。

私が上野さんから受けた教訓の中で、文言的にもはっきり憶えているのは、「偉い人に成りなくてもよいから善い人に成りなさい」ということであった。この点私は自己の凡庸と怠慢を唯々恥じるのみであるが、上野さんは間違いなく善い人であり立派な人であった。しかもこの世に大いなる足跡を遺し、誰からもその他界を惜まれた。要するに単に善い人であったばかりでなく、正に偉い人でもあつたと言わざるを得ないのである。

先日高輪の光輪閣で催された東京

壇濱文雄（45回、S7）

上野さんは13期、わたしは45期、普通なら深い関係は無いが、私一わたしらと云った方が、適語と思うが一忘れられないご恩を受けました。旧制高校と大学の学資金を、北野中学校卒の後輩という関係で、1922～1940年の卒業生、実に24～25名へ出していただいた者の1人が私です。

小学校時代に両親に死別、遺産がなかった私でしたが、おかげで大学を終え、この56才になるまで、平凡ながらサラリーマン生活を、健勝にて今日まで続けて来れました。

上野さんの当時の恋愛があればこそと、いまも有難く思っている「六棧一心会」の会員の一人です。

北野の校名を変えろと外部圧力があつた折、守り通して下さった人一十年前の正月に朝日新聞社に息子をつれて、ご挨拶に行った時の温順や

大先輩上野精一さんを偲ぶ

六校会の席上、淳一さんから上野さんの墓所が京都市鷹ヶ谷（しかがたに）の法然院に定まるだろうとのお話伺った。南禅寺から北に向って流れる疏水に沿った小路、俗称「哲学の道」が銀閣寺に近くなった辺りから、東へたらだら坂を上ると、眼の前に幽邃な一画が現れる。そこが外ならぬ法然院の境内である。上野さんが大変尊敬されたという内藤湖南先生や、河上肇、谷崎潤一郎等々名士の墓が多い。その閑静な環境は上野さんが眠られる遂の場所として極めて相応しいと思われる。お墓ができれば早速にお参りしたいと考えている。（昭和45.7.31）

、すぐあとに追っかけるようにして息子のために「少年朝日年鑑」を送って下さった温情一多忙の新聞役員時代に、母校にも尽くされた愛情一七年前の八十周年の祝賀会の時、八十才とは思えぬ若々しい上野会長の挨拶など、いろいろとなつかしい思い出があります。

去る四月二十日、お宅での通夜の帰り、邸の近くの芦屋川は大雨の増水でした。橋上でかさをさしたまま、私はしばらくたずんでこの川音を聞きながら、上野さんの在りし姿を一時しのいでおりました。

朝日新聞社一すじの一生、私ら北野生へそそがれた深い愛、そして何も→上野さんへご恩返しができなかった後悔一それらのことを次々思うて五十六才の私は涙が出ました。

上野さん。ほんとうにいろいろとありがとうございました。ご冥福をお祈り致します。（昭和45・6・28）

便秘
（胃腸運動失調症）

聴覚障害

頸腕症候群
（けいわん）

眼精疲労
（めいせう）

四十腰

五十肩

筋肉痛

リウマチ

神経痛

肩こり

疲労



☆5ミリ錠・25ミリ錠・ほかに50ミリ錠

☆詳しくは医師や薬局・薬店で ☆食後にどうぞ

随 想

點 鬼 簿

田上泰昭 (現職)

最近どういふわけか、いろいろな学校で同窓会の行事や、名簿の発行が盛んに行われているようだ。平和なのであろう。小学校から大学までを旧制度による十七年間の年限通りには出たものの、その間あちらへ行ったり、又出戻ったり、所定の年限を途中で逃げ出したりして、あまりストレートにはオルソドックスな歩き方もしていないので、私の手許にはいろんなところの名簿が届けられて来る。同窓会への案内もしきりである。名簿の届いた一夜は何とはなしにあちらを捲り、こちらを眺めて過してしまふ。結構面白くも見るのだが、それも一晩で、あとは本棚に仕舞い込み、次には年賀状を書くと引きっぱり出して見るまで、ついぞ眺めたこともない。電話帳でも、眺めておればそれなりに飽かず楽しめるものなのだから、覚えのない記憶も、見ているうちにはいろいろと想い出されて来て、ついつい時を過してしまうものではあるが、想い出される記憶は多くが苦く、さりとて左程に深刻なものでもないで、結局それだけで終わってしまうのが同窓会の名簿なのだろう。

私の出た中学は田舎の小さな城下町で、町には女学校と、私たちのところに新設された商業学校との三校が、古城趾のまわりに集っていた。新制度になってその三校が統合され、一つの高校として発足したので、名簿も一つになり、明治以来、その町で中等教育を受けた男女のすべての名前が記憶されることになった。近くにいてその名も人も知りながら遠くに隔てられ、鎮ざされた情念の炎を

熱い目差しにちらつかせていた中学生と女学生たちの名が、齢不惑を過ぎてはじめて一つの名簿に同席したのである。令名高き秀才にも、標榜しにひそかに運動会を盗み見むものと懸けし悪童たちにも、遅過ぎた青春の解放ではあったが、又そこはかとなき乙女の姓も、麗容聞えし小町の姓も、今は変って均しく書き記された。それにしても創立七十周年だという最近の名簿では、四十五回分の卒業生の名前が三校合わせても驚く程少い。それに比べると、高校になってからの二十二回の方は分厚く、男女の名前も賑やかに入り混っていて、そこには戦後大きく変革した中等教育の普及とその様態が見られた。そのうち百周年になる三十年も後のころには、この名簿が、この町に生れて就学した全市民の成人名簿にもなり、又點鬼簿にもなるのだろう。現に高校の部は怒濤のように広がり生きており、青い頁一枚を隔てた中学、女学校の部などは、本論の前に付けられた序論にも等しく、辛うじて懐古的に完結しているようにも見えるのである。物故者の数も年々に多くなって来た。

旧制高等学校の同窓会名簿がどうなっているかは知らないが、全く完結したそれは軍関係学校のものである。昨年八月、「毎日グラフ」がその別冊に「あ・江田島」と題して海軍兵学校に在学した第二期から第七十五期までの全生徒の写真を観せたが、陸軍では隣行社が「陸軍士官学校」と題して、将校生徒として関係諸学校を含めて在籍した全員の氏名を掲載する、歴大な学校組織紹介の写真集を出版した。それによれば、関係各学校でそれぞれに同窓会名簿を出しているものと思われる。私は中学の三年四組を東京陸軍幼年学校

に第四十八期生として在籍したのであったが、明治三十年の第一期からほぼ五十年、昭和二十年入校の第四十九期まで、わずか半世紀の間にその名簿は完結している。今後この名簿に更に新たに書き加えらるべき私の後輩はどこにもいない。まさか防衛大学校がこれらの名簿を額に冠して、それこそ男ばかりの同窓会名簿を刊行することもあるまい。これは又決してあってはならぬことである。「毎日グラフ」はその副題に、「その栄光から結末まで」と書いていた。まさに點鬼簿なのである。私の手許の「東幼会名簿」に列らるる名前は三千五、六百にもものぼるであろうか。その中の物故者はまさか半数までもなるまいが、しかし、明治三十七年の日露戦争以来、太平洋戦争まで、職業軍人の養成を目的とした学校とはいへながら、その戦死者は枚挙に遑がない。戦死・戦病死から自決・公務死・病死、果ては死刑に至るまで、丁寧に出来得る限りをその場所・年月日まで記している。病死では病名まで記されているものもある。第一期生の戦死はすべて日露戦争であり、これは第二期生にまで及ぶ。第三期生から敗戦時の自決が多く目にとまる一方では、A級戦犯として処刑されたものがあり、その同期生で外地に責めを負って死についた人もある。昭和十一年七月十二日、代々木練兵場に轟いた銃声は、二、二六事件連座の青年将校を殺した。その中に第二十五期から三十二期生までの五名がいた。下つては比島・沖縄特攻と記された戦死者は私などより六期上にまで追っていたのである。自衛隊も創設されていつか二十年になり、そこに戦を求めた人で、戦わずして殉戦した人の名も見える。この「殉戦」が「戦死」とその名を変



ランプのともる静かなロッジ

誰もが溶けこむ不思議なムード

ロッジ タンネ

長野県上水内郡戸隠村越水 (戸隠)026254-6121

里野龍平 (70回)

えてはならぬ。「東幼会名簿」は第四十九期生を最後としてその数を決して加えるものではない。そこに最後に残る者の名前が誰かは知る由もないが、病死は己むを得ぬまでも、自決、殉戦、戦病死、ましてや再び戦場に、いかなる義のためとはいえ戦死と名のつく人は出ないで欲しい。そう念じながら私は年々に増して行く物故者の数を数えて、「その栄光から結末まで」の過去帳を胸に生き

ねばならぬ。

戦争と共に歩るいた日本の近代は、冒頭に旧制中学の部を持つ高等学校同窓会名簿の中にも、多くその傷痕を残しているものと思われる。この傷つき敗れた部分を分け持つ者として、青い頁の一枚を隔てて続く無傷の高等学校卒業生名簿にその名を列ねる人々に対して、私たちは何を語らねばならないのだろう。完全にそれが過去帳として、點鬼簿になり果

せる最後の一人まで、「その栄光から結末まで」の何かを語らねばならぬ。名簿は年々にその厚さを増すことだろう。その間に決定的な断絶があるものならば、何故一冊の名簿に纏めねばならぬのか。年々に湧き出る若いエネルギーに、徒らに断絶の無力を詫つのみならば、さっさとこの點鬼簿は切り離せばよい。そして位牌堂の奥深くにでも仕舞われればよいのだ。(1970・10・15)

年 波

河原 剛 (現職)

峠のこと。不覚にも、この年になる迄、私には厄年なるもの、意味が分らなかった。高を括っていたのである。42才で死亡率が異常に高くなっている統計表など見たことがない。所が実は死や病氣や服喪ではない様々のものが待ち構えて私を啓蒙した。厄年とは峠を越える事だったのである。目の前にして登る可き坂はない。行手はすべて下り坂で、彼方に漢とした霞の谷が見える。たゞ疲れてそこへ降りて行く他は無いのである。

鼻毛のこと。同年のある同僚は髯を持つていない。髯の話など決してしない。髯など世の中に存在しているのか、という顔をしている。彼の頭は蠅の足だっけかからない。今一人の同僚は禿白髪である。掌で跨ったその量も今は然程でもない。赤い地肌が透けて見える。彼は昔言っていた。「地肌は青くなくちゃ不可ん」私はその何れにも属しない。髯だつて時折使っているし、白髪抜きなんぞ勿論持っていない。しかし、さる朝、私は発見した。鼻の穴に一本、目にもしるくその存在を主張するものがあつたのである。私は、それを急いで抜いた。そして、何故か

、これが身体を中心により近い所でなくてよかった、と思った。

パッチのこと。男が足を組んで座っていて、そこにパッチが見えるのは情ない。断固として私は、少なくとも年内はパッチは短かいので通そうと決心した。昨年暮れ、大学を出たばかりの同僚と酒をのんでいて、私はズボンの裾を捲くり上げ、それを誇示した。彼はたちどころに自らのズボンを太腿まで捲くり上げ、パッチなんぞ穿いた事が無いと言った。成程、一面に熊のそれの様な真黒い毛に掩われている丈だった。私は羨しかった一そして、いつ迄もその事にこだわった。熊がパッチを穿く訳ないよ。

女のこと。近頃、例えば飲屋に行っても、女の子が何やらひどく馴々しく話しかけてくる。當て無かった事なのだ。女生徒についても可成にその傾向が見えだしている。それは侮られているのだ、とまたひとは言う。全身の毛孔から発散すべき繁殖力の妖気に、今急速に鬨りが出始めているのだ。森めく雄の集団から今離れつある雄のオットセイなのだ。

ホームランのこと。毎年、春と秋の試験中に、文理科対抗の職員ソフトボール大会なるものが開かれる。昨年秋、私は、守っては投手として

敵を9安打、6点と完投し、攻めては2ホームーを含む10割を打って、文科快勝の主因となった。それにまたひとはいうのである。燃え尽きんとするろうそくの灯の最後の瞬きである。

169のこと。先日、青年部の例会で、生れて始めてボーリングをやった。私はまだ青年部員なのだ。そして169が出た。若い同僚の一人が言った。「まだまだ大したもんですね」しかしその目には労りの色が見えたので私は即座に反撥した。「次は200だ」こんどは彼の目に軽侮の色が浮かんだ。老愚といった種類のものに対するそれであった。

負け惜しみのこと。近頃、若い人との勝負事で負ける事が多くなった。そしておきまりのせりふを聞かされる。以前はニヤリとして聞き流していたこの言葉にひどく腹が立つ。いきり立って挑んでは更に負けを重ねる。実力が相対的に低下したなどとは微塵も思わない。磨き過ぎに著しく欠け始めているのである。それと気付きながらも私は思っている。青年部は絶対やめぬ。全打席ホームーを打ち、鼻毛の手入れを怠らず、なる丈パッチを穿かず、全女性に警戒心を抱かしてやること。(丁)

(1971・2・7)



心のふるさと野沢温泉
日観連会員 さがきや
北野スキー講習会宿舎
長野県下高井郡野沢温泉村
TEL (026985) 代 3180

同窓会の記録より

- S 45-1-19 六校通信創刊号15,000部印刷完了
- S 45-2-25 卒業式にひきつづき、同窓会代表新入会員歓迎の辞(山本常任理事)
- S 45-4-19 多年にわたり、衆星の之をめぐる北辰の如く、同窓会団結の中心として全会員賛仰の的たりし本会顧問、上野精一氏天寿を全うして逝去。百周年を前にして、痛嘆に堪へず。思へば八十周年記念同窓大会において場外にまであふれる三千の大会衆を前にして挨拶されし記念委員会会長のお姿が最後なりし。
- S 45-4-21 故上野精一氏密葬
- S 45-4-25 同朝日新聞社社葬、両回とも会長以下多数会葬。
- S 45-5-6 山本常任理事来校、百周年に備えて基本的なことにつき会長と意見交換。以後度々来校、鴻池常任理事も又同じ。
- S 45-5-15 会計監査——谷口、滝井両監事
- S 45-6-4 東京六校同窓会総会、主事2名の他大阪よりは、折から上京中の寺尾威夫常任理事代表を始め、飯田耕次郎氏(39回)、石田千代之輔氏(55回)も出席、若い女性会員の顔も混じえて、盛会、(なお本年—46年の総会は来る4月27日場所は従来通り高輪の光輪閣)
- S 45-6-13 有志主催の万博会場と霞間ビルを結ぶテレビ同窓会
- S 45-6-25 旧職多田成彦先生告別式

- S 45-10-13旧職友広芳夫先生告別式
- S 45-11-10常任理事会。於学校。
- S 45-11-12理事会。於阪神百貨店七階。理事増員の件その他百周年記念事業等につき意見交換ありしも未だ一般に発表する段階にまで煮つまり

- たる事項なし。実に43年4月編集子、係となりし以来始めての理事会なり。次回開催は4月ならんか。
- S 46-2-25 新入会員歓迎の辞。(鴻池常任理事) 六校通信第2号 15,000部発行

昭和44年度六校同窓会一般会計報告

収入の部		支出の部	
前期繰越金	205,834円	人件費	110,800円
入会金	724,000円	通信事務費	43,695円
利息	10,312円	慶弔費	23,220円
		旅費	44,780円
		記念品料	55,000円
		新入会員祝	58,000円
		次期繰越金	604,651円
計	940,146円	計	940,146円

昭和44年度六校同窓会基金会計報告

昭和43年度末の特別会計の残高を昭和44年度より六校同窓会基金とする。

収入の部		支出の部		
昭和44年度	当初基金	1,678,738円	次期繰越金	1,713,777円
	利息	35,039円		
計		1,713,777円	計	1,713,777円

昭和44年度六校同窓会名簿及び会報会計報告

収入の部		支出の部	
前期繰越金	6,170円	名簿印刷費	2,150,000円(5,500冊)
名簿売上金	3,416,000円(4,270冊)	会報補訂表印刷費	450,000円
名簿広告収入	1,240,000円	名簿送料	407,825円
会報協力金	606,900円	会報送料	397,726円
会報広告収入	190,000円	ソノシート製作費	475,000円
利息	12,005円	事務費	213,830円
		会議費	59,890円
		通信費	222,894円
		人件費	124,356円
		次期繰越金	969,554円
計	5,471,075円	計	5,471,075円

高級紳士服直営チェーン

メルボメンズウエア株式会社

取締役社長 清水 貞 保 (昭和14年卒業)

(大阪地区) 船場10号館店 東区船場センタービル10号館
千里中央店 地下鉄千里中央サンタウン2階
中もず店 中もずダイエーション・パースプラザ内

旧 師 通 信

浅野長雄先生 (M42~T2)

近く開校100周年を迎え御同慶の至りに在じ上げます。就ては協力全甚だ些少でお恥しい次第ですが、貪者の一燈と、ご笑納下さらば幸甚。目下亀岡病院で加療療養中

梅原義一先生 (36回T12, S5-9)

30年近く勤めた大阪女子大学を一昨年3月末で定年退職しました。引きき地元の被昇天女子短大で教えています。

気づいたままに

水島喜平先生 (T15-S24)

こんど「六礎通信」を創められ、「創刊号」を大変楽しく読みました。学校で正規の授業をしながら、これだけのことをすることは大へんなことです。心から感謝いたします。北野の歴史も百年に近くなりました。今のうちに、気づいたことを記しておかないと、まったく忘れられると思います。それで私の気づいたことを記します。思いがけいもあるろうと思います。ご訂正下さい。

1. 現校歌ですが、「六礎通信」3頁には「1915年11月 大正天皇の御大典を記念して上井晩翠作詞岡野貞一作曲の現校歌発表、初合唱をする……」とあります。昭和6年新校舎が落成した後、佐々木博士に新校歌の作詞を江崎誠校長が依頼された。私は「校歌をかえない方が良いでしょう。」というた所、石崎堀教頭が「今は校歌ではない。あれは40周年記念式の祝歌だ。」といわれたことを憶えています。御大典記念ならば大正4年です。40周年記

念ならば大正12年です。その当時先生であった方、生徒であった方、にお願いします。どちらがほんとうでしょうか。歌詞からすれば40周年記念式典歌の方が正しいようですが、それだけで判断も出来ません。

(編集子註、大正5年3月刊の校友会誌“六礎”46号に御大典を記念して校歌作製の記事ならびに歌詞が記載されています。また大正13年6月の六礎同窓会報第1号には学校記念日の歌4章が校歌とならんで記されています。)

2. 海軍式白ゲートルは北野のシンドルの一つでしたが、戦争がはげしくなると来まして軍の要請でしょうか田村清三郎校長は陸軍式巻ゲートルにかえさせました。昭和19年と思います。私のもとに記録はありません。18年かもしれません。そして昭和21年春濱田成政校長の時に巻ゲートルもやめました。

3. 制服について。大正15年私が北野に就職した時夏の制服は白でした。昭和2年保護者会が出来、その要望で霧降りにかわった。昭和2年からかと思う。この時職員会で片山先生と武市先生と論争されたことをおぼえている。現在の簡単な白シャツにかえたのは昭和21年6月濱田校長の時で、当時としては大決断であったが、「北野のすることなら良いにきまっている」というて他の中学校がすぐに真似をして呉れた。

(この首葉は当時町町商業学校教頭鈴木節三先生(旧職)の話)

4. 外套について 昭和7年4月現在の十三の地に移ったのであるが、その冬から外套を着ることが許された。学校ではマントにするか、外套にするか長い討議があった。長坂校長の話によると、中学校長会の席上

で当時の江崎校長が「十三の校舎へは風の強い淀川の堤防上を長く歩かなければならんから」と説明し他の校長先生達の諒解を得られたそうです。

5. 大阪府立北野中学校生徒保護者会 加藤嘉彦氏(昭和6年卒)のお父様が主となって大正15年設立し、昭和23年P.T.A.となるまで続いた。最初の仕事は生徒の水合場を造ること、つぎは夏服を変えたことであつたように思う。

6. 同窓会会員名簿について 沿革の昭和14年1月全校生六甲山登山はその後17年まで毎年耐寒行事として行った。

昭和16年8月5日-6日登山部が百軒行軍を行う(関西地方で初めて)昭和17年8月 全校榎原神宮参拜のため夜間行軍。

協力金を送って下さい

去年1月下旬に創刊号をお送りしてから3月末日までに協力金をお送り下さった方は765名で、その金額は8ページの通りです。4月以降はその人数多くはございませぬ。1回お送りするのに約60万円が必要ですが、4月以降はまた郵送料が上るようですが、ぜひご協力下さい。ついお忘れになっていらっしゃるのだと思います。差にもあることです。名簿はまだ残部あり

95周年記念の名簿はまだ若干残っています。どうぞお申し込み下さい 1部800円で送料はいたしません 広告掲載料金

今回は下記のようにご協力願いました

第1ページ 40,000円

第20ページ 30,000円

中のページ 20,000円

御婚約・御贈答に
ダイヤモンド

仲庭

信頼こそ永遠の輝き 仲庭6店

梅田本社
(阪急前御堂筋東側)
☎(313)051200
阪急三番街店
(地下鉄入口)
☎(372)5959
橋本橋店
(毎日新聞社前)
☎(364)812100

神戸さんちか店
(さんちかタウン)
☎078(39)4593
新大阪駅店
(ステーションストア)
☎(302)6670
大阪ロイヤルホテル店
(セイコーショップ)
☎(448)1028

会員だより

浅井竹五郎 (21回M41)

私共21回の卒業生たちは「北陵会」を結成して60年以上もつゞけて毎年集って居ます。現在会員20名みな80才位です。

私は昔買ったラケットをまだ放さずテニスを続けて居ます「北庭会」員の現役です。

前田和三郎 (25回M45)

北中水泳部の思い出——

全校皆泳を目指して

私の北中在学時代、学校では毎夏二週間位埋の大浜で水泳部を開いていた。そしてその指導監督を堺中学に依頼していた。その模様を思い出してみると、海岸によらず張りの脱衣場を設け、生徒はまるで海水浴の様にして勝手に海に入り、それを三人の泳ぎのできる塚中の卒業生が水際で見張っているに過ぎず、実に危険千万な姿であった。

私は中学を終えて京都の第三高等学校(旧制)へ入学したが同僚の山本登君と相談して母校の水泳部はぜひ母校の卒業生があづかって指導すべきであると語り合い、時の校長梶山延太郎先生にその旨達言した。校長は気持ちよく吾々の達言を入れてお任せ下さった。両人は直ちに泳ぎのできる同志五、六人を集めて計画を練った。一年生から三年生までは理由のない限り強制的に参加して貰い四年以上は自由とした。又水泳教授法、そのカリキュラムを定めた。泳法としては平泳法、所謂がま足を基本とし、泳ぎ得る距離を以って組分けをした。最長は五里であった。上級となって泳を体得したものに

はあらゆる水勢の変化に應ぜられる様、立体、横体、抜手、浮身、潜水、飛び込み等を授けて卒業とした。然し、之等を貫く最も根本的な考えは全校皆泳という事であった。

秋になると学校から謝礼として金一封を頂戴したが吾々は母校に対する奉仕としてやったので之は他の運動部へ寄附をした。

私自身約六年位之を継続した。その後は後を継ぐ同志の方々が何年かやって下さった。

先年東京六校会の会長を御引受けすることになったが、毎年その総会の時に今は立派な御身分の方々から中学時代私に水泳を教わったといわれ何だか面はゆい気持ちやら、嬉しい気持ちやらでいっぱいになることがある。(赴寮者は東京六校会々長)

須川憲太郎 (26回T 2)

六校大二会、年二回会合。常連十五名。忘れ得ぬ印象、破帽、白ゲートル、毎日徒歩五十分の往復。健脚の基礎。實業剛健。晩翠の「五文原」高吟。暗誦、美文の耽読。寒風廊下の押合の暖房。等々。

阪田靖人 (27回T 3)

1983年に創立百周年を予定されているが、母校の神代時代とも申すべき集大成よりの10年を加えれば1973年、即ち昭和48年が開校百周年に該当する。生きてる間に母校開校百周年を祝いたいのは私だけかな?(編集子申百周年は73年)

松山一忠 (28回T 4)

一昨年及び昨年大阪での同級会に七十才を越した者三十数名が集りお互いは勿論恩師をすらニックネームで呼び悪童振りを発揮し昔をなつか

しんだ、一度新しい母校をたづねたいと話合い散会した。

栗飯原健三 (29回T 5)

(大五会便り)

夢のない人生は淋しい、若い時は自分独りの夢。老いては大五会の仲間と抱く夢。昭和四十八年百年祭、四十九年大五会喜寿の宴、五十一年卒業六十周年。

木村治朗 (29回T 5)

母校との繋りが非常に稀薄と云うのが残念な事な今日までの姿です。同期生(大五会)間だけは連絡つけて時折旧交を温めて居るこれから六校通信がとりもち役になることを期待している。

草間實吉 (29回T 5)

在学当時の先生方は殆ど他界されあのポプラやユーカリの樹の茂った校舎も今は跡形もなくなって見る事ができなくなりました。でも六校の名を聞くとあの懐かしい母校の景色が頭に浮んできます。同窓の方々お達者で。

佐伯祐三のことも

阪本 勝 (30回T 6)

ことしの初め、「佐伯祐三」を出版したところ、たいへんよい売れゆきで、いま第七版を印刷中である。

インテキな出版屋のなかには五百部か千部を一版とするところもあるが、拙著の刊行所「日動出版部」は非常に良心的で、三千部を一版として版を重ねている。したがって、七版という二万一千部になるわけで、一画家伝がこれだけ売れたことは稀有のことだと、東京の出版界では話題になっているようだ。しかも、ま

頭痛・歯痛
生理痛に
セヂス錠
シオノギ製薬

田辺製薬株式会社

取締役社長 平林忠雄

本社：大阪市東区通修町3丁目21番地

まだまだ売れる見込みだというから、うれしい。

拙著の「まえがき」にもあるとおり、この書の出版を決意した理由はこうだ——つまり、なにぶん佐伯が三十才の若さでパリで死んだのは、四十年も昔だから、佐伯祐三の名はいつのまにか伝説的なものになりつつあると思われるふしがある。このままに放置すると、佐伯はいわゆる「まぼろしの画家」になりかねない、だからこの際正確な伝記をつくって、佐伯祐三の名を日本人の心に定着せしめなければならぬ、という点にあった。

こういう考えで出版してみたところ、さいわい売れゆきがすばらしいので、著者は胸を撫でおろした。

「ああ、よかった、よかった……これだけ多くの人に読んでもらったら、かれがいかなる人間であったか、ハッキリしたはずだ……ああ、よかった、よかった……」

というのが現在の私の実感である。

佐伯の死後かれについて書かれたものはみな断片的で、デタラメがいふん多い。北野に関して一例をあげると、北中在学中佐伯は野球のキャプテンで名投手だったなど書いたものがあるが、じょうだんも休み休みいってほしい、といいたくなる。「あいつがピッチャーやった、キャプテンやったりしてたまるもんか！」と憤りをおぼえながら、私はかれの野球ぶりを描写して、誤った伝説を訂正した。

彼の死後四十年にわたって雑誌や新聞に掲載された記事は、ほとんど全部目を通したが、この種の誤りはじつに多い。いちばん驚いたのは、パリの墓地に「仮埋葬」されたところの記録だった。火葬とも土葬とも書

いてないから、たんに埋葬といわれると棺を土中に埋めたと解釈されるおそれがある。こんなことは、火葬場の実地について調べればすぐわかることなのに、いい加減なことを書くやつもいるものだ。

刊行後全国から何百通も手紙をいただいたが、拙著の内容について誤りを指摘され、著者もなるほど思った箇所はただ一点だけである。(それは、ある日本人画家がパリの佐伯のアトリエを訪ねる箇所に関するもので時期的に考証するとあり得ないことだというのが、なるほどだと思うので追って訂正する。)

いままでのところ、このほかに誤りを指摘され著者が承服した点は一点もない。だから拙著が完全に正確とはいいがたいにしても、ほぼそれに近いと信じている。佐伯のため、北野のため、よろこばしいことだと語ってもらいたい。

(昭和45年8月18日記)

吉岡新一 (30回T 6)

北区芝田町にあった北野中学の卒業生です。木造二階建の古びた校舎でしたが先生方は着々派な人格者で今でも忘れられない人ばかりです。我々のクラスは今では七十才前後の老人ばかりですが年一回は会合して懐しい北中時代を話し合うことを楽しみにしています。

野平 上 (32回T 8)

六穂己未会50周年同期会は昨秋十月河野準二名幹事の肝入で大阪府下健康学園で開かれ十九名参加懐しい会合であった。故佐伯祐三藤田哲両先輩を上級生に持ち中村典興先生の薫陶を受けた。ポプラの並木の思

村井藤十郎 (32回T 8)

六穂同窓会会員であることを一生のほこりとしています。

よわい既に七十になろうとしていますが、今なお、六穂の健児として働いています。

六穂己未会 (32回T 8)

卒業50周年 記念会合記

(報告者前注) この50周年記念会合記は六穂通信創刊号に載せてもらうはずのところ、原稿が締切に間に合わず1年遅れとなりました。関係先へおわびいたします。

(記念会合下準備)

大正8年(1919年)の卒業といえ、昭和44年(1969年)は50周年記念会合を開くべき年ということがわかっている、5年も前から「何か好ましい案があれば提案してもらいたい。」と会員にお願いしてあったが、別に名案が出ることもなく、昭和43年(1968年)の春を迎えた。いつまでも手を拱いているわけにゆかず、世話役から提案して、各事業案に対する賛否をアンケート形式で返事を取り、賛成者は少数でも賛成者だけで実行するに至ったものを挙げて、「六穂通信」に記録として残しておいて頂くことにしたい。

(記念事業案)

第1—百歳健康長寿法の実行)

会員も卒業当時の人数が生き延びている者約半数近くに減った。日本人の平均寿命からすれば、妥当な指数であろうが、過去に較べて、生命の補償価額が上昇しつつある現代人の自己生命に対する再認識を必要とする時代にさしかかって、今更の如く「百歳健康長寿法」を実行してみようとするのは、「日暮れて路遠し」の感もするが、「心がけ次第で寿命

原産地直輸入問屋

生薬 <和漢薬>

株式会社 三 國 商 店

本社：大阪市東区道修町2-25 TEL(231)2357

カラーコミュニケーション

オフィスでカラーシャツを

東洋紡

TOYOBO



は延長することができる。今からでも遅くない。」を相言葉として次の秘訣10項を実行することにした。これらは諸大家の説をコンパクトしたものである。

百歳健康長寿秘訣10項

(1)求めよ、与えられん。「天は自ら助くる者を助く」「人事を尽くして天命を待つ」という格言があります。健康長寿を願う者は、先ず先人の研究に感謝し、この10項目の実行を神仏に誓いましょう。

(2)現代医学の恩恵に浴すると共に、予防医学に徹せよ。現代医学常識を心得、定期診療を怠らないようにしましょう。身体の不調ないし病気とは、摂理に反する我流生活に反省を求める天の警告であることを悟り、医療・薬療・その他の治療法を講ずるのもよいが、速かにその原因を追及対処することが治療の根本主義であり、再発防止の最善策であることに気付かなければならない。

(3)衛生を守る者に自然良能は最高に働く。節酒・節煙(できれば禁煙)は申すに及ばず、不衛生一切追放を決意履行し、自然良能作用に信頼して、薬物の濫用を慎みましょう。

(4)成人病の原因は過・不足の累積から。過食・偏食・過労・睡眠不足・運動不足を自戒自省し、ビタミン・ミネラルの摂取を十分に、血液の正常アルカリ性保持に努めましょう。過食が原因で肥満し、肥満が成人病の原因となる例は多い。

(5)血行順調は健康の元、カゼは万病の元。日々入浴の効果を疑わず、冷温法又はたわし摩擦による血行順調カゼ引き予防を期しましょう。

(6)現代人は運動不足を補うため体操

を欠かせない。朝夕欠かさず体操(各自考案)を行ない、行住坐臥姿勢を正しくし、つとめて徒歩主義をとることにしましょう。

(7)食養生極意。三白(白米・白砂糖・食塩)の害毒は意外に深刻であることを知り、玄米食・黒パン食に切換える(または米麦胚芽の補食)と共に、淡味食に慣れ、香辛料を節しましょう。その結果、主食少食を実現し、間食を避け、雑魚・野菜・豆類・海藻・果物を比較的多くとりましょう。

(8)調理法秘伝。調理は完全食・生(ナマ)食を重んじ、植物性油・食酢(又は果物酢)を盛んに使いましょう。

(9)進歩向上に老化なし。趣味を豊かにし、頭脳の練磨向上を怠らず、努めて大自然に親しみ、散歩・登山・旅行等により、大いに見聞を広めましょう。

(10)神意にそう者に好運と長寿を与え賜う。信仰に徹し、平和・希望・感謝・歡喜・精勵・奉仕・陽気に生き、神仏のご加護を祈願しましょう。以上

(記念事業案

第2—英文の翻訳連載)

このクラス会の誇りとするに足ることに、プロフェサー級の英語学力者が、多数存命しているのを挙げる事ができる。われわれが英語の手ほどきを受けたのは、もちろん、この北野中学であったが、在学5年間を通して受け持っていた英語の先生に故福津慧峰先生があった。この先生の熱意ある薫陶のお陰で進学率も良かったが、後年まで英語を得意とする者を輩出したのは、この先生の訓育に負うものであることを、今更の如くに痛感し、師恩に感謝する意味で、たまたま偶然ではあったが、

この記念事業案を提案したら、要請せずして十指に余る賛同申込があった。たちまち翻訳ページ数の割当をして、連載が始まったのが1968年8月号からもう2か年を経過、このままではまだ2か年かかる。エライ記念事業を引受けたものだと思はれているが、「乗りかかった舟」で、彼岸まで漕ぎ着けねばなるまい。翻訳監修者として、稿の進むにつれて興味を増して行くのは、この原著者はアメリカ人だが、日本にもこれと同工異曲の達見識者が珍らしくないことであり、「真理は孤ならず、必ず隣あり」の感を深くする。そしてこの翻訳もまた、わが国民の衛生思想に警鐘の役を果たす時期もあろうかと思うと張り合いもある。連載されている雑誌名・発行所・原著書名及び著者・その大意は下記のとおりで、興味のある方は直接発行所へお申込下さい。まず見本1冊は無料贈呈してくれるはず。

雑誌名: 「人間医学」月刊1冊
#50

発行所: 人間医学社(大阪市北区小深町45)

〒530-91Tel372-0441

原著書名: THE JOYS OF GETTING WELL (NATURAL) HYGIENE

健康への歡喜(自然の良能)

著者: Herbert M. Shelton
(哲学・医学博士)

大意: 現代医業学界の迷信を弾劾し、病気の看護は自然の良能作用を発揮せしめることにある旨を強調する。

翻訳料: 翻訳の謝礼として会員その他に「人間医学」誌が毎月送呈されている。

(記念事業案

第3—古希ポートレイ集)

変圧器

キュービクル(日本電気協会推奨品)

溶接機

電気温水器(関西電力推奨品)

蓄熱式電気暖房器(関西電力推奨品)



大阪変圧器株式会社

本社・変圧器 大阪市東淀川区元今里北通 3丁目14番地
〒532 ☎大阪(06) 201-1212 (大代表)
事業部 大阪府摂津市市下里丘5番1号
〒564 ☎大阪(06) 381-7041 (大代表)
東支社 東京都渋谷区広尾5丁目4番12号
〒150 ☎東京(03) 444-0251 (大代表)
札幌・仙台・名古屋・広島・多摩津・福岡

記念会合の記念写真を送って、そのお返しに各自の古希の姿を1枚送ってもらいアルバム1冊を作ろうとの案であったが、送ってくれる人が一部のみに過ぎず、大いの人々が非協力的なので今のところ不完全なアルバム作りとなりそうだ。

(卒業50周年記念会合記)

卒業50周年記念会合ともなれば、盛大にやりたいのは人情だが、あまり派手にやると、エリート会合になって、集まりをわるくする恐れがある。われわれは栄枯盛衰均しからずとはいえ、この歳までには酒池肉林にも浸り飽いて、今更金殿玉楼の温泉郷に遊びたいとも思わない。われわれの会合は50年振りに始めてだという人を交えて、懐旧話に華を咲かせ、現世に生き残った喜びから、来世極楽の話にまで及べば、どう切り結んでも2昼夜はかかるだろう。それにふさわしい会場はないものかと探そうち、「あった」「あった」非営利的施設で地上天国の出現を目ざす桃源境「健康学園」(京都府綴喜郡田辺町大住賢谷Tel 07746-2-2248)を予約して、下記日時を選んで思い出の会合を催した。

記

日時： 昭和44年10月10日～11日～12日

場所： 中心会健康学園(所在：片町線大住駅下車徒歩10分)

出席者： 寺井種彦(沖縄在住、遠来賞) 長沢由次郎(福岡市在住、珍来賞) 河田末吉・小西善次郎・小野祐三(以上文部賞) 勝慶徳・竹内五郎(以上仁術賞) 木村登三郎・増沢浩(以上勉甲賞) 野平上(芸術賞) 西田常一・喜多山三郎・木村賢治・平林虎雄・寺村

貞治郎・宇賀康・河村伊之助・伊藤維章・澤太坊礼二(以上仲良賞) 河野幸二(碁棋賞) 他に河村夫人以上21名。出席予定であったが支障発生のため不参加者：西村純平・平井要・村井藤十郎・馬場勝

欠席通告者：30余名と意外に多数であった。

戯作書時：

古希易達功難成 五十年光陰如別未覚六棧並樹夢 人類初印月面歩(註外一ロケット)(世話役：河野記)

磯林政三(33回T 9)

その昔の北野中学のニックネームを「六棧」と誰がつけたのか私は知らない。気持ちのよい言葉である。六棧魂とよく叫ばれたがこれは大和魂に通じる意味合いもあった。要するに天、地、人に対して純粋であれと理解し永久に伝えてほしい。

松田弥一郎(33回T 9)

母校北中柔道部は府下最強校であった吾々時代を回顧し今の柔道部は全く弱い。後援会を作っているが残念だ。部出身の先輩諸君よ多数集って元気で精古をやり部員を鞭撻してやらうじゃないか。兎に角道場に集ってくれよ。

松野文治(33回T 9)

実行委員を作り同窓会総会を一年に一度は開いて下さい。阪神百貨店食堂等を利用し委員に負担をかけない方法があります。会費も安くてみます。皆が集まると云うことが意義があります。

清水亨一(34回T 10)

ひょんなことから畑違いの病院に

勤務することになり若い看護婦の間に伍して暮している。関西で行われる一泊旅行の同窓会にあと何回参加することができることやら。高血圧の管理だけは商売がらうまくいっている。

藤原圭一(34回T 10)

芝田町地の利よかりし十三の焼餅の店遠くもあらず、(当時北野中にもあり)惜敗の試合に泣きてうづくまる北野の庭を渡る夕風 秋の陽のボプラ並木に傾けば下校を急ぐ友呼ばふ声

竹中靖一(37回T 13)

六棧通信の創刊は同窓会にとって画期的なことで、まことにうれしく存じます。国富みて、心賞し、ともいうべき当節、心のふるさとである同窓会のいっそうの発展が望まれます。

田中順之助(37回T 13)

ご無沙汰して申訳ありません。東大卒業後日本経済新聞社を経て愛宕山時代のJ O A Kに入社し、勤続25年で昭和37年定年退職しました。現在水戸で茨城文化団体連合事務局長もしています。

白井次郎(39回T 15)

六棧同窓会に希望する事

1. 理事長制の確立
2. 会費の勵行
3. 会費制度の整備
4. 事務局の強化
5. クラブ室の創設
6. 会報の月刊実施
7. 地方支部の整備



いつもあかるく
たのしさいっぱい

**甲子園
阪神パーク**

阪神電車

3月20日～5月31日

南海
汐見公園
未来をひらく **大海洋博** 雷鉄

島 三郎 (39回T15)

この年になっても北中時代を忘れかねる僕は、総ての運動部がもっと強大になってほしいと切望して止まない。

将来の願学志望者を除く普通の学生なら 学問とスポーツは両立すると思うのだが……。

寺元精甫 (39回T15)

名簿の訂正は大へんな仕事と存じます。経験者でなくては其の苦勞も判らぬと思います。厚く御礼を申し上げます。その御苦勞のおかげで私などは本当に幸しています。重ねて御礼を申し上げます。

高塚任二郎 (39回T15)

大変結構な企劃と思います。殊に私達通隔の地に在り常に母校の消息を知りたいものに取っては、この上なく有り難いものと思われます。校長先生、植村先生始め編輯にたずさわって下さる先生方に対し感謝と敬意を表します。

中谷孫一 (39回T15)

東京にも随分六稜の卒業生は居り各方面に活躍しています。小生の同期にも明治生命の副社長。亡くなりましたが吉田大使東大教授は3名、皆さん定年退官各々新しい方面へ行かれました。小生の主治医も六稜の人です。

足立 彰 (40回S2)

終戦直後勤務先、住所が変動して一時行先不明の欄に入っていたかと存じますが勤務先宛名、住所も一応安定して居ります。阪大工学部もやっと安定な場所に集合し、通勤に不便ですが住所は変えない積りです。

池上 力 (40回S2)

クラス会は世話役でもち昭二会は岡田喜雄君ならではの出来なお世話で新春還暦の祈念祭と祝宴を安い会費で楽しみ一杯の集いがありました。

同君はクラスだけでなく六稜同窓会の名物男であります。

森 泉一 (40回S2)

馬場英一先生が73才の高令で頑健そして伊丹御在任のことを初めて知りました。嶺(北野一阪大医学部卒)が先生に英語を教わり、私よりズツ若い先生だと云っていました。その内に敬意を表しにまいます。

青山祐一 (41回S3)

新潟でも一度六稜会の会合があればと望んでいます。二年前札幌在住時代の六稜会合を懐しく思ひ出しています。その中に六稜の名簿を調べて見ようと思っています。

小野田 潔 (41回S3)

昭和3年卒、昭3会在京の連中と6月 日総会を兼ねて集まることとしました。小生那須野ヶ原の一隅で農業を作っています。二女一男そろそろ学校も卒えて一人前となり果立ちます。孫がやっと一人出来ました。

岡田喜雄 (40回S2)(41回S3)

小生今般二十年余住みなれた八尾市から山深い郷里に転宅いたしました。万国博が済んでからと計画しておりましたが八十二才になる母親の一人暮らしを案じ急に決行いたしました。

2年を経て親孝行を思いつき、通勤にはちょっと時間がかかりますが空は澄み山は緑に空気は清浄です。お休みにはぜひご家族連れでお越し

をお待ちいたします。

新住所〒632 天理市待原332

電話 07436(9) 2832

新庄健次 (42回S4)

前回の六稜通信で林前校長が私と同郷の長崎県平戸市に永住されて居るのを知り文通の上増野の折に御面会の機を得たいと楽しみにして居ますSLフランシスコ、ザビエルに興味を持ってパレレンを少々研究面白いです。

築山義雄 (41回S3)

学会や出張が多く、多忙に紛れおそくなりました。阪急沿線には北野出身者が多く、どこへいっても同窓会員の何人かに会います。還暦を迎え、まだ若い気ですが近頃昔の友達がなつかしくなっています。

浜谷 弘 (42回S4)

~昭16大阪府庁:渡瀧(会社):昭和21引揚:昭和23~40兵庫県庁:以後今の会社 同期のお歴々に比して誠にお恥しいが中小の建設会社です。吉田辰雄、張崎敏行、茨木信成各氏の賀状を拝見し懐しく思いました。

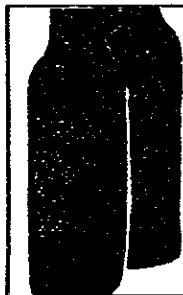
中島 敏 (43回S5)

6月4日の東京六稜会に参加し、数人の知友と会談できましたが、同期生には会えませんでした。

同期生会を待とうではありませんか。大阪で隔かれれば参上します。

山田光賢 (43回S5)

30年の昔、打ちつけてもすぐ釘の出る道場で竹刀をふりまわしていた皆さん、お元気ですか、小生昭和16年米の東北の片田舎での教員生活に終止符を打とうとしています。さてこれからどうしたものかと思案中



新鮮でうまいビールを求めてやまない
アサヒビール



三ツ星ベルト
三ツ星ベルト株式会社

本社/神戸市長田区浜通4丁目7 TEL (078) 571代
支店/東京・神戸・名古屋・福岡・大阪・札幌・金沢

井上麻雄 (44回 S 6)

埼玉県草加市ニ於テ皮革染色工場ヲ経営シテ居マス。
同市ニ藤滝サンモ皮革工場ヲ経営シテ居ラレマス

飯口雄石 (44回 S 6)

先日某社で「クラス」会があってある人が僕をつかまえて「オイ飯口君」と呼ばれたので「イヨ一見たことのある顔だが誰だつたかな」と思って胸の名札を見ると何とそれは先生でありました。私等も年をとったものです。

友田 均 (44回 S 6)

1万5千の同窓の中で「リース」と云う仕事をしているのは私一人ではないでしょうか。浜松町の世界貿易センタービルの36階に居ります。東京の空からの眺めでも御覧に是非御立寄り下さい。

里田美雄 (45回 S 7)

宛先島根県が広島県日原が日吉と徹底した誤記振りでしたが六校通信を手にしてよくも迷わず届いて呉れたと感謝の気持で一杯。小生昨年春四月五五才の誕生を機に二二年の町長生活から足を洗ひ目下閑居中。

野田隆一 (45回 S 7)

伊藤忠入社以来35年ニナリマス。同社ノ子会社ニ出向シ専務取締役ヲツトメテオリマス。冷凍食品ノ製造ガ主業デス。ヤヨイノ冷凍食品 ヲブ愛用下サイ。

布施敏信 (45回 S 7)

北野卒業後大高を経て阪大医学部 卒当時未だ少なかった精神神経科を専攻して早いものである30年たちました。その恩師師一故郷兄太郎教授も

北野の先聲でしたし、母校の同窓の方の御指導協力を得た事を感謝しております。

松井一雄 (45回 S 7)

昭和7年卒第45回の同期生松本茂太氏の計報にこの4月4日接した。福島区で岩田屋という料理店を長年経営していた。同期生が会合の拠点ともなっていたところである。まだまだ童顔を残していたのにノ

浅井龍太郎 (46回 S 8)

46期の諸兄よノ
次の46回には全員出席して、幹事の苦勞に報いよ。
1万5千の同窓よノ
もう一度北野へ入った積りで、若返ろうではないか。
1970年代の日本の進路を我らの手で開拓しよう。

久志本元也 (46回 S 8)

六校通信ありがとうございます。また名簿作製のご苦勞を感謝します。九大卒の関係で九州に住みつきました。同級生の消息も知りたいが同窓会はいつも不参、時折東上の際、車窓から母校を眺めてなつかしんでいます。

西岡 弘 (46回 S 8)

昨今のむつかしい大学近の中で教育と研究のかみあわせに苦慮しております。学生がたえず訪うてくれるのを喜びながら、責任の重さを感じております。新しい大学の理念を考えてゆきたいと存じます。

山本武夫 (46回 S 8)

北野の思い出の中に命短く芸長しと説かれた浅田甚吾先生の教へが心に残る、願わくは学問を愛し芸術を解

し悠然たる中に情熱を秘めた青年の生れることをその人達が新しい世界をひらくであらう春近し御健闘を祈る。

吉川 清 (46回 S 8)

42年の暮阿波踊で有名な徳島に転勤、水と緑に恵まれ民情素朴空気清浄風光明媚な徳島の街そこには都会の騒音混雑は無い朝に夕に扇山の翠巒を眺め繁務の閑時には壱端を遺遺し想を遠く天正の昔にはせて居ります。

有坂三郎 (47回 S 9)

田舎の中学から転入した為、小生の母校在学期間は3年間に過ぎぬ。しかしその後の同窓生との交誼は30年を越えるに至り、益々親しさを覚えるようになってきた。不思議なものである。

今津三郎 (47回 S 9)

淡路島岩屋に在住すでに20年第二の故郷となりつつあります。空気と魚がおいしいので未だ岩屋を離れる気持になれません。淡路島に來られたら御立寄り下さい。

北村誠三郎 (47回 S 9)(48回 S 10)

昭和9年(47回)卒業後九州大学医学部に進まれた武内隆(スクネ)君の戦中戦後の動靜を御存知の方は六校同窓会事務局宛御連絡下さい。同期の人達が元気であった彼の消息を心持ち致しておりますのでお願致します。

佐々木雅一(典)(47回 S 9)

京都は大阪とちがいが小学校祭などで保護者は送学に関して頭を悩ましています。全国的に知育徳育共に他府県に劣った文教地区です。昨年は洛星109名付属中学70名付属高12名京大11名の送学者を出しました。

生そば お食事処

水車

北千里店・阪急北千里駅・TEL068(72)1025

六稜ティールーム(北野高校内)

TEL06(301)4423

どうぞよろしく 空 武信

ヤマハ・ステレオ・ピアノ・エレクトーン

愛人社・楽器

大阪市西淀川区花川北之町1?1
電話 (471)2750 国鉄塚本駅西口

**62期生卒業20周年記念
大同窓会報告**

「遠き日の講義恩ぶや同窓会」
我々62期生は大平洋戦争末期の昭和19年に北野中学校入学、戦後の23年に中学5年となるころを新制高校2年と名称が変り、然も大手前との強制交流による男女共学をまぬがれた最後の学年で、高校3年迄の6年間同じ校舎で戦中戦後の混乱期に多感な青春時代を過した特異な学年でもあるわけです。従ってそれだけに思い出も多く、入学早々からの勤労働員や服部農園（現緑地公園）の田植や、いも作りをはじめ、中学2年の時には学校防衛として宿直、6月15日の大空襲には2名の同期生を校庭にて散華せしめ、戦後は空襲と急造民主主義にとまどいながらも、最上級生となった24年には選抜野球の全国優勝を筆頭に、同じくテニス部シングルの全国制覇、以下水泳、体操、陸上、バスケット、ハンドボールが何れも大阪大会で優勝して全国大会に出場、バレーボール（準優勝）サッカー（三位）など運動部の黄金時代を築き上げ、他方文化部長地歴部やESSの研究発表会上位独占をはじめ、各クラブとも目ざましい活躍があり、又グループ同人「わたつみ会」のメンバー2名の武田尾深流に於ける厭世自殺など社会的にも何かと話題の多かった学年であったと云い得ましょう。それだけに結末も固く毎年代表幹事である昭和丸篤の佐藤社長を中心に同窓会を開いて参りましたが、今年は卒業以来満20周年目に当るので何か変わった企画をやろうではないかと有志が集り、白ゲーターに学帽姿で十三から学校迄の行進など、いろんなアイデアがとび出しましたが、戦時中に殉難し

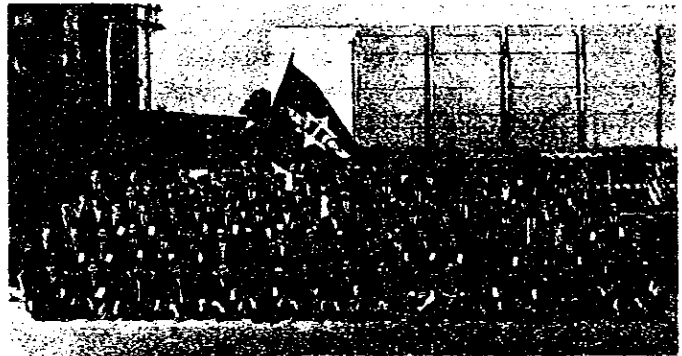
たクラスメートの慰霊も兼ねて結局次の様な要領で同窓会を開催致しました次第です。

記念プログラム

時 6月7日(日) 午後1時30分集合所 大阪府立北野高等学校 校庭及教室(懇親会場 新大阪ホテル)
会費 授業料 懇親会費共 3,000円
1:30~2:20 自習(ソフトボールも可)
2:20~2:30 点呼

2:30~3:30 国語 川井先生
歴史 三木先生
英語 水鳥先生
生物 佐賀先生

その他都合により時間割の変更あり
3:30~3:45 中島・池田両君の畫に捧ぐ(正業寺大住職 辻彰君担当)
4:00~4:30 林校長及恩師を囲む座談会。記念撮影。記念植樹。
4:30~5:00 応援練習風景再現



62期生卒業20周年記念

(リーダー 浜吉正康君)

5:00~5:30 会場移動(新大阪ホテルへ)

5:30~7:30 懇親パーティー(思い出を語ろう)

7:30~8:00 校歌 仰げば暮し 螢の光 散会

結果は翌日の朝日新聞など二・三の新聞に報道されたとおり大盛況で、わざわざ我々卒業時の校長であった林先生が遠路、長崎県平戸市から出席賜ったのを筆頭に(この誌上を借りて改めて厚く御礼申し上げます)

120名を超える懐き顔々が勢揃いし、頭のはげたのや白髪まじりの頭髮も、この会の為に新調した六徳マークの学帽をかぶると、わざわざ胸の名札(戦争中の名札そのままに血液型迄記入したもの)を観なくても

アダ名が先に飛び出すと云う愉快な風景から開幕のはこびとなり、昔懐かしい水鳥先生のトツツとした坊主節の英語や、戦後の教科書の無い当時を偲ばせるガリ版刷りテキストによる川井先生の万葉集講義(水鳥・川井両先生ともこの特別授業の為にわざわざテキストをお作りいただきました一重てお礼申し上げます)を聞いていると一同正に感慨無量の思いがした次第です。その他三木先生の「歴史は夜つくれる」や時間割変更による岡島先生のお話し、更には林校長先生にも含奮のある「倫理学」?の講義をいただき、いづれも当日の級長役である吉橋勇君の起立、礼、着席の号令よろしく素晴らしい同窓会を持つ事が出来たと大いに喜びあった次第です。

**トップ プリント アンプ メーカー
田中電工株式会社**

代表取締役専務 田 中 陸

本社工場 大阪市旭区森小路町3丁目7番地 TEL 06-951-1131(代)

部品工場 大阪市旭区大宮町3丁目21番地 TEL 06-953-2261(代)

小松工場 石川県小松市安宅町甲135番地 TEL 0761-21-2000(代)

又会場を新大阪ホテルに移しての二次会では、学校とはすっかり違った雰囲気の中で前記級長役の吉瀬君が総司会者として、さすが今春の府会議員選挙に東区から立候補せんとするだけあって辨舌たくみなユーモア・爆笑の連続、その合い間には元応援団長の浜吉君が一次会の学校内での応援練習風景再現好評の余波で再度登場、拍手や校歌、応援歌の大合唱に居合わせたホステスの美人連にも「こんな愉快な素晴らしい同窓会ははじめてです」と大いに羨ましがられた次第。最後に一同「仰げば暮し」「螢の光」で先生方をお送りし、午後8時過ぎ大成功裡に閉幕となりました。なお当日はB5判12頁の「六楼第一62期生卒業20周年記念特集号」を発行、戦災で焼失したため是非コピーしてくれとの要望が多かった中学1年入学当時の全クラス写真や62期生年譜、殉職者追悼記、選抜野球優勝時の「今だから云える、裏評も含めた横書きスコア」などを掲載、好評を博したほか、当日の受付から二次会終了迄の記録映画も撮影し、次回の同窓会に上映する予定です。同期の諸君は御期待下さい。終りに当日御出席賜りました恩師の御氏名を紹介し、又当日御出席願えなかった先生方共々何時迄も御健康で御長寿で25周年、30周年……と御元気な御姿に接する事の出来るのを楽しみにお待ち申し上げる次第です。

林元校長先生、水島先生、岡島先生、川井先生、三木先生、平石先生、西田先生、藤田先生、竹谷先生、以上本当に有難うございました。

(レポーター 田中 睦)



五十五期会に参会して

昨年の五十五期会の席上で、今後毎年2月の第2日曜日を定例日として同窓会を開くことに一決して居ったが、今年も幹事の諸兄(奥田、石田、岸田、藤井博君他)の並々ならぬ準備の上に、集う同期生は昨年の数を上回る位、迎えた六恩師(安藤、小松、友広、水島、原、小林先生)は相当な年令の割にかくしゃくとした姿を見せられ、藤井君の軽妙な司会で会は有意義に楽しく進行していた。

最初に諸先生の御話を戴いたが、成長した昔の教え子を満足気に眺めて遊められた劇話は、学校時代の御説教とは勿論違った暖か味が感じ得られ、先生と生徒との断絶感を云々される今日の学校紛争の事が、比較的の不図思い起こされて、宜き先生を戴き良き時代を過ごしたものと、私は昔を懐かしんだ一人だった。

今年の会の特長は、卒業以来始めての諸兄も多く顔を見せたことで、頭に白髪を乗せた人あり、既に毛髪の乏しくなった者あり、万年青年を誇るもあり、各人夫々世に尽くす部署、仕事の種類こそ異なれ、既に社会の中堅となって活躍中の者ばかりで、六楼同窓生ならではの感しきり、速く東京、名古屋、北海道、岡山より来阪するものあり、矢張り戦中派の吾々の年代は特に昔の良き時代を懐かしがるのかな、単なるノスタルジアと嘆く人があっても、社会の醜さを知らない年代を、その時代を共に過ごした友と会って思い起こすのも結構楽しい事だ。

会の終りに際し、全員輪になり肩組み合い、校歌及び応援歌合唱あり、期せずして湧き起こる「仰げば暮し」

の哀調は、恩師を前にして感慨は一人(どうも戦中派は涙もろい)であった。

既に世を去った同期生も多いことも考え併せて、動脈硬化症の初期に頸を突込んだ年令の吾々は、呉々も我が身を自重自愛して、毎年数多く参会して語り合ひましょうよ、気持だけでも若返りしましょうよ。

最後に幹事一同の御努力に惜しまざる拍手を送ります。(木戸 記)

一編集子附言、これは去年の記で今年迄は去る2月14日梅田パラスビルで開催新顔も交えて80名盛会、一同友宏先生を悼みご冥福を祈り黙祷の後にはじまる。

ガンさんを偲ぶ会

栗井先生が北野で担任された学級の中から、自然と話が持ちあがって大谷透、三吉隆裕の両君が中心となり、「故栗井記念会」が作られた。発起人に名を連ねた多数の若い人達の数ヶ月にわたる努力の結果、記念誌「ガンさん」が昨年7月出版され有志の人々に頼られた。同時に一周忌を記念して大阪北の新北京で「ガンさんを偲ぶ会」が催され、関東から四国、九州に至るまで各地にいる昔の教え子達百数十名が集まり、ご遺族を招待して、故人の徳を偲んだ。記念誌「ガンさん」も見事なできばえで、中でもガンさんご自身の病中日記には胸うたれる。

阪本美術館長を弔む会

先輩阪本勝氏が兵庫県立美術館長の初代館長に就任されたのを機に、同館で開催中の「近代百年名作展」の鑑賞を兼ね、岡氏を弔む会が、昨年十一月八日、石津、白井、岡田三氏のきも入りで開かれ、京阪神地区に在任の人々が多数参加した。

株式会社 昭和丸筒

本社 大阪市北区堂島中1-25
堂島勸銀ビル
TEL 06(345) 3751

営業品目

化学織用各種ボビン、容器、樹脂成型品

代表取締役 佐藤 功(62期生)

はしがき

わが六種同窓会は東京で最初に誕生した。それから萌芽の萌え盛る如く大阪その他の各域で続々と誕生し遂に今日の全域同窓会の成立をみるに至った。ところで同窓会というとき、今日も二様の意味に用いられる。一は会合の名称として、一は組織の名称として。ここでは組織同窓会の沿革を記述しようとするのであるが、古い記録を見てもその性格の曖昧なものが少なくない。会名・役員・事務所の所在地を明記した六種会もあれば、自発的幹事格の世話役がその時々自然発生して同窓によびかけ時々茶話会を開いたかと思われる継続的潜在組織同窓会もある。



1. 濫觴—地域同窓会のはじまり

明治24年頃・当時東京高商在学中の安場楨次郎・一高工科在学中の大山彌也両氏の発起で卒業年次の新旧を問わず、在京の同窓（殆ど学生）相集まって大阪尋常中学校同窓会を結成、春秋の二季に会合し、毎回50～60名が出席した。同25年に母校に送られて来た名簿には70名の氏名が記録されている。（大阪尋常中学校校友会報告第一号）

実に今日の秩序あり統制あり和氣あいあいとして老少相和し同窓親睦の實大いに上がる東京六種会の萌芽であり全域六種同窓会の濫觴といふべきである。（記念誌「創立50周年」）

2. 諸流並進

- (1)地域同窓会の隆盛
- ④大阪六種会

目次

1. 濫觴—地域同窓会
大阪尋常中学校同窓会(東京)
2. 諸流並進
 - (1)地域同窓会の隆盛
大阪・東京・兼陽・中京
 - (2)学内同窓会の盛行
東京地区・京阪神地区・中国九州地区
 - (3)期別同窓会の初期
3. 本流形成
 - (1)六種同窓会の初動
 - (2)六種同窓会の成立
4. 六種同窓会の行事事業
 - (1)総会
 - (2)会報・名簿
 - (3)新入会員歓迎会
 - (4)校名存続運動
 - (5)石川文庫の設置
 - (6)六種会館の建設
 - (7)母校創立50周年記念事業
 - (8) * 60周年記念事業
 - (9) * 70周年記念事業
 - (10) * 80周年記念事業
5. 本流形成後の諸流
 - (1)地域同窓会
東京・大阪・其の他
 - (2)学内同窓会
 - (3)職域同窓会
 - (4)期別同窓会
 - (5)クラブ同窓会
 - (6)在阪有志の活動

六種同窓会の沿革（一）

最初の誕生は—東京で
六種の名称は—熊本で

（発端）明治26年1月7日宇野源三郎、桜井正太郎、柴田光彦氏らの幹事で同窓の会合を備一亭に開き、40余名出席、母校よりは山崎校長以下9名が列席し以後毎春会合と定む。会の名称はまだ無かったらしい。

（六種会）同28年8月北野村鱈の茶屋で金子校長歓迎親睦会が開かれた当日幹事12名を選び、10月松葉亭で会合、会則の原案を練る。29年1月魚房樓で大会、出席50余名、次の会則が成立した。

1. 本会は大阪府第一尋常中学校に在学したものを以て組織し、会員相互の親睦を目的とするものにして名付けて六種会という。
2. 本会の目的を達せんが為毎年1月、8月の両度大阪に大会を開く。（但し臨時に小会を開くことあるべし。）

3. 本会員中より幹事12名を選挙し更に常務幹事2名を互選す。
4. 会員住所職業等に異動あるときは直ちにその旨幹事に通知すべし。

これを見ると六種会は理としては全域的なものであったが、実としては地域的なものと考えられる。

（名簿の発行一休会）

本会は29年の末に名簿を発行した。掲載会員数 243名、その後活動を停止する。時の常務幹事安場楨次郎氏の下関赴任のためである。

（再興）

明治40年安場氏帰阪し六種会の再興に着手、同43年10月明月楼で北野旧堂島中学校同窓会なる会合を開き旧師を含めて30余名出席、大阪六種会の結成を協議した。

大阪六種会

株式会社 森 組

取締役社長 森 幸 治
専務取締役 森 幸 彦

本社 大阪市東区横堀2丁目14 TEL (231) 8 2 8 3 (代)
支店 東京・名古屋・奈良

(規約)

上記の結果・大阪六校会の規約が生まれた。大要次の通りである。

1. 名称—大阪六校会
2. 会員—大阪府尋常中学校以降の縁故者
3. 入会金—2円以上
4. 会合—六校の名に因み毎月6日大阪ホテルで晩餐会、会費は毎回2円
5. 大会—一年1回、庶務会計報告
6. 役員—幹事15名、常任幹事4名任期各2年

(会合)

これに基づき明治44年1月6日第1回会合、後会場は時に他に移したりもし、大正3~4年頃からは毎月の集会もその回数を減じ昭和7~8年頃には年に一兩回となる。

(大阪六校会報告の発行)

常任幹事安場氏の企画により明治43年小型冊子大阪六校会報告を発行し40号まで続刊した。(編集子未見。お手持ちの方は乞脚連絡。)

(森田先生への副題)

明治34年有志募金して在職満20年の森田先生に頌徳副題の詞と共に額面250円の公債を贈る。同37年先生退職に当り再度募金、大型プロマイドを作製して母校に寄贈、残金を先生に贈る。44年先生東京に移れるに際しては多数の会員駅頭に見送り、記念に銀時計を贈った

◎東京六校会

東京六校会なる名称がいつから用いられるようになったか目下不詳。明治32年9月の例会には矢部元校長も出席、33年1月の例会には、たまたま上京中の石川、金子両先生も参加し40余名出席。

38~39年頃は一時活動が休止していらしい。(六校28号)

40年11月には復活第一回会合。

41年2月に第二回の会合を開き規約を改正。44年の夏、谷田繁太郎氏らの発起で計画されていた矢部善藏元校長の油絵肖像画が出来上がり、45年春、加賀豊三郎氏が母校に送り届け贈金額の残金で記念図書を購入し同じく母校に寄附した。

◎瀧尾六校会

明治33年9月六高、岡山医専在学中の会員並に岡山在住の会員を以て創設、当時会員26名、春秋に大会を開くことを定めている。(六校20号) 後には事実上六高だけの学内同窓会になった。

◎中京六校会

明治42年5月八高、名古屋高工在学の会員並に当地在住の社会人会員10名が会合を開き、発会式を挙げ15名が出席、同9月には第三回の会合を開いている。

◎全域的事業

石川先生副題式

明治42年5月23日第一期生で永く母校に在職し当時市岡中学の校長たりし石川先生が全く一身の栄達を顧みず本府中等教育に尽せられた功績をたゝえる式典が当時の(現在のではない)中之島公会堂で催された。

当日は教え子の公開講演会、頌詞朗読があり、記念品として金の懐中時計と額、副題の詞を刻んだ金メダルを贈り、来賓の高崎府知事、菊池衆院議員の祝辞が花を添え、式後銀水楼で盛大な同窓大会を開いた。

◎伯備六校会

明治45年4月、偶々来伯の宇都宮先生を迎えて在伯6名が会合、大正

元年9月には谷田繁太郎大佐を迎えて4名が会合している。これは組織としての六校会でなく会合の名称らしいが異国での事なので敢えてこゝに取り上げた。

(2)学内同窓会の盛行

東京地区

○一高六校会

明治39年11月5名の同窓が親睦会を開いた。大正2年に正式に会名を定め、大正4年には会員13名。

○三田六校会

明治40年2月第三回会合。

○一橋六校会

明治40年には会員7名、43年には15名。団結の強固を誇り、毎月小会、年三回は郊外に大会を開き、明治末期には活発な活動をしている。大正10年も会員15名に達し盛会を誇る。

○国学院六校会

明治40年には会員5名

○東京帝大六校会

明治42年10月に10名、45年3月には15名が会合。

○早稲田六校会

成立は比較のおそく、大正3年10月新入生の歓迎会を兼ねて第三回の大会を開く、19名。

京阪神地区

○三高六校会

学内同窓会としては最も古く明治25年頃既に20余名が時々会合を開いている。初めは会の名称もなく組織立ったものではなかったらしい。34年には会合はあるが会則はなく、幹事は月番交替で京大生を客員とし三高生を正会員として併せて30余名。35年頃故上野精一氏は京大三高を合併して平安六校会の結成を計画している。44年の八木秀次氏の記述によ

印刷インキ・材料・機械
株式会社吉弘商会 専務取締役
大阪市東成区中道1丁目2-22
写真製版・印刷
株式会社 フレンジィクス 代表取締役
大阪市東区内久宝寺町3-43

明るく住みよい
大阪をつくる新しい力!

吉
よし

栖
すみ

勇 (62期生)
いさむ

後援会事務所 大阪市東区内久宝寺町3-52
TEL (941) 2369

れば、その頃までに平安六校会と改名したり、分離したりしている。大正11年には41名。

○大阪高工六校会

明治36年成立、会則役員を定める。26名

○京都帝大六校会

明治42年3月には15名が会合、大正7年には20名が集まった。大正11年には14名が出席。

○関西大学北野会

明治44年11月、19名が例会を開く。

○神戸高商六校会

○大阪高医六校会

何れも六校38・39号(明治末)にその記事がある。

○大阪高商六校会

大正3年5月に第一回茶話会、大正8年の六校53号にも時々会合の記事が記されている。

○大阪医大六校会

大正9年には職員学生併せて26名

中国九州地区

○龍南六校会

明治27年在熊本五高の在学生14~15名は本会を組織しその会則が報告されている。(大阪尋常中学校校友会報告第三号) 管見に入った「六校」の語の最古の用例である。30年に一時休会、31年11月再興、会則並に幹事を定める。36年には会名はそのままで府下の他校の出身者も仲間に入れている。

○山口高校六校会

明治35年頃には「趣味高き」茶話会を開いている。

○七高六校会

明治36年金田校長の視察旅行を機に結成、42年頃には職員を含めて会員数24名

○岡山六校会

大正4年9月六高生13名で結成、先に生まれた畿陽六校会はすでに中絶して當てのその存在は忘れていたらしい。

(3)期別同窓会の初期

○同致会(第4回生)

在学中より結成されていた本会は明治24年卒業後も緊密な連絡を保っている。

○同盟会(第5回生)

この会も在学中より結成され、夏冬には通学者の帰省を持って全員の会合を開いている。(六校1号)

○丙申六校会(第9回生略して丙六会)

明治32、34、41年の集会の記事がある。

○六校同舟会(第23回生)

明治43年8月第1回の会合を開く。

3 本流形成

(1)六校同窓会の初動

大正12年は母校創立40周年に当るので、学校ではこれを記念してさまざまな事業を起さんと種々検討されていた。これを聞いた出身者の何人かは学校側に協力することを申し入れ、同7月9日学校に於て第1回の会合が開かれた。当日参集した出身者は不二樹茂之助、安場徳次郎、官浪幸太郎、前田徳次郎、山口幸太郎の諸氏である。第2回会合は7月29日で、この時は石津作次郎氏、秋田栄之助氏らを含む16人が集まっている。これらの人々をはじめ更に多くの人々を発起人として、40周年の記念式に附随して行う事業と寄附金募集(1人3円以上)の印刷物が出身者に送られた。その事業とは

1. 創立以来の学校関係者並に会員諸氏の死亡者追悼

2. 永年勤続職員諸氏の功勞表彰である。そして文書の最後に次のことが附け加えられている。

今回相談の結果本校卒業生のみならず中途退学の方々をも併せて六校同窓会員と認めずから名簿記入済れに御氣附の方があらば早速母校内六校同窓会宛報告願ひます。

こうしてわが六校同窓会はこの文書の日付、大正12年7月29日にその活動を開始した。

偶々9月1日関東大震災があり、9月25日第3回の会合が学校で開かれ、記念式は来春適当な日まで延期することに決定した。そこで発起人の名で同日付を以てハガキで一同に通知し、大正13年1月20日、今度は大阪府立北野中学校内六校同窓会の名を以て祝典の時期を4月と報ずると共に募金の締切を2月末日としている。1月28日学校に於て第4回会合、安場氏起稿の六校同窓会規則を逐条審議し、最後の修正は委員付託となった。その結果出来た規則の大要は今日のものとさほど変りはない。(以下次号)

編集後記 お待たせしました。年二回の発行は資金面から無理なようです。理事会の結果を報告しようと待ちましたが、間にあいません。多くの会員から通信原稿を戴きました今回は先輩優先、ご了承下さい。次号に廻します。協力金感謝します。まだの方はどうぞよろしく。

昭和46年2月22日印刷
昭和46年2月25日発行
六校通信 第2号
編集 植村繁一
発行 大阪府立北野高等学校内 六校同窓会
印刷 日本写植印刷株式会社



株式会社 鴻池組

取締役社長 鴻池 藤 一